Map E-4

Map D-6

Map C-8



長久手市

長久手市の指定文化財一覧表 ◆国指定文化財

種	別	名 称	所 在 地	指定年月日
史	跡	長久手古戦場 附 御旗山 首塚 色金山	武蔵塚205外5筆 富士浦602 岩作元門41 岩作色金37の1内一部	昭和14年9月7日

◆県指定文化財 長久手の棒の手 長久手市 昭和31年6月21日 無形民俗文化財 岩作の「オマント」 岩作地区 昭和60年11月25日 長湫地区 平成17年3月22日 長湫の警固祭り

◆市指定文化財

種別	名 称	員 数	所 在 地	指定年月日	所有者等
史跡	長久手合戦史跡 ・長久手城趾 ・堀久太郎秀政 本陣地跡 ・木下勘解由塚	3か所	城屋敷2408、2409 坊の後113 荒田9-1	昭和58年2月26日	長久手市 景行天皇社 長久手市
	神明社第2号古墳	1基	神門前420-1	平成3年5月27日	神明社
	三ケ峯第3号窯	1基	岩作三ケ峯1-16	平成9年3月4日	石作神社
	木造薬師如来坐像 (円空仏)	1躯	杁ノ洞2331	昭和59年7月17日	永見寺
	旧北熊村の古文書	220件	岩作城の内60-1	昭和63年7月19日	北熊区
ちぶさんけ	御書(円遵筆) 付 黒漆蒔絵箱 付 黒漆四脚台座	1巻 1合 1脚	岩作城の内60-1	昭和63年7月19日	長湫 日表講長湫 宮脇講
有形文化財	神明社の棟札	12枚	神門前420-1	昭和63年7月19日	神明社
	神明社の石造鳥居	1基	神門前420-1	平成2年2月8日	神明社
	多度神社の石造鳥居	1基	前熊志水108-1	平成2年2月8日	多度神社
	景行天皇社の棟札	38枚	西浦401	平成12年2月10日	景行天皇社
	丁子田1号窯・市ケ洞 1号窯出土刻銘須恵器	10点	武蔵塚204	平成25年1月31日	長久手市
無形民俗文化財	長久手の警固祭り	1 地区	上郷地区	昭和58年6月11日	前熊区 大草区 北熊区
	前熊の山車	1台	前熊志水108-1	昭和58年6月11日	前熊区
	馬の塔図絵馬	1面	松杁1855	昭和58年12月12日	三光院
有形民俗文化財	猿投三社大明神祭図 岩作村西之切画軸	1幅	岩作宮後17	昭和60年7月15日	石作神社
	陶製御深井釉狛犬	2対4躯	西浦401	昭和60年7月15日	景行天皇社
	木造 恵比須天・ 大黒天 二像	1対2躯	岩作宮後17	昭和63年1月11日	石作神社



令和4年6月発行 第5版

長久手市郷土資料室

長久手合戦400年を記念し昭和60年、古戦場公園に開室。長久手合戦の資料のほか、オマント (警固祭り)や棒の手など市の民俗資料も展示しています。

■所 在 地/武蔵塚204番地 ■開室時間/9:00~17:00 (入室は16:30まで)

■入室料/無料 ■休 室 日/月曜日・祝日の振替日・12/28~1/4

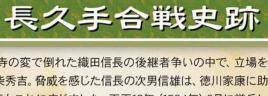
■T E L/0561-62-6230

■駐車場/普通車49台・大型バス1~2台

長久手市 生涯学習課 〒480-1166 愛知県長久手市野田農201番地(長久手市文化の家) TEL0561-56-0627 HP https://www.city.nagakute.lg.jp







本能寺の変で倒れた織田信長の後継者争いの中で、立場を強めて いく羽柴秀吉。脅威を感じた信長の次男信雄は、徳川家康に助けを求 め、家康もこれに応じました。天正12年(1584年)3月に挙兵した両軍。 秀吉方の犬山城攻略の影響で尾張が主戦場となりました。犬山の羽 黒での戦いの後は、小牧付近で膠着状態が続きましたが、先に動いた のは秀吉方でした。家康の本拠地岡崎を攻めるため、三好秀次(秀吉 の甥、後の関白)を総大将とする別働隊を送りましたが、その動きを 察知した家康も軍を動かし追撃しました。こうして同年4月9日、長久 手で激しい戦闘がおこりました。

この日の戦いで、秀吉軍は池田恒興(勝入)・元助(庄九郎)の父子、 森長可など有力な武将を失い、家康軍が勝利しました。しかし、その 後、秀吉は信雄と和睦、家康を傘下に入れ、信長の後継者としての地 位を確立します。家康は、秀吉に臣従こそするものの、その政権下で 別格の地位を保ち徳川政権樹立の足がかりを固めていきました。

勝 入 塚 (国指定史跡)



秀吉方の武将、池田恒興 (勝入) 戦死地 と伝えられます。尖った「明治の碑」は、明 台24年に恒興の子孫が建立しました。そ 左横の石柱「明和の碑」は、明和8年 (1771) 尾張藩士人見彌右衛門と赤林孫 七郎が古戦場を訪れた際、立てたもので た標木が朽ちて遺跡が滅失しつつあるの

Map F-6

Map F-6

を嘆き、造立しました。彼らのほかにも尾張藩士が顕彰のためこの地を訪 問した記録があります。

之 庄 九 郎 塚 (国指定史跡)



池田元助 (之助とする書もあり/幼名庄 九郎) の戦死の場と伝えられます。 元助は 池田恒興の長男で、父とともにこの地で戦 死。恒興同様、「明治の碑」「明和の碑」が あります。また庄九郎塚の左側「勝道九兵 衛秀胤討死之霊/池田一族」と刻まれた石 柱も長久手合戦にちなむものと見られます。

武蔵塚(国指定史跡)



森長可(美濃国金山城主)の戦死 地とされ、官名にちなんで武蔵塚と よばれます。勇猛果敢な武将として 知られ「鬼武蔵」とも呼ばれました。 人見・赤林による「明和の碑」と、子 係が明治31年に立てた「明治の碑」

Map D-6 色金山に兵を進めた家康は、秀吉方の様子をう かがいながらこの山に進軍し、頂上に金扇の馬標 を立てました。後年、地元の人々がまつった富士 社が山頂にあり、その拝殿前に「御旗山」と記す石

ち ば 塚 (国指定史跡)



岩作村安昌寺の雲山和尚が、合戦 で戦死した多くの将兵の屍を集めて 塚を築き、手厚く葬った跡とされます。 首塚は、『尾張名所図会』の「色嶺」 の頁でも安昌寺に通じる路傍にはっ きりと描かれています。塚上に宝永 3年 (1706) の福富親茂の碑や明治 43年 (1910) の地元有志の漢文碑が

Map C-8



嶺」として一頁を使って紹介されています。

3年の福富親茂の碑、明治43年 の地元有志の漢文碑が立ちます。 床机石を少し南へ下った山中には、 家康方の武将で長久手合戦で戦 死した伴若狭守盛兼の墓碑もあります。色金山は、尾張国八郡の名勝・旧 跡を網羅し図説した江戸時代後期の名所要覧『尾張名所図会』でも、「色

】長久手城趾(市指定史跡)

長久手合戦の折り、徳川方の丹羽氏についていた加藤太郎右衛門忠景 の居住跡。忠景は、義弟岩崎城主丹羽氏次の留守を預かって奮戦しまし たが、岩崎城は落城、戦死しました。文化6年(1809)、城跡に加藤氏末 孫の尾張藩士が立てた石碑が現存します。

8 堀久太郎秀政本陣地跡 (市指定史跡) Map D-5



た堀秀政が、三好隊を追う徳川 勢を迎え撃つために陣を張った 地とされます。「堀久太郎秀政本 陣地」と刻む碑の当初の設置 F・位置・造立者は不明ですが、 昭和45年 (1970) に桧ケ根山頂 に置かれ、区画整理で若干移動 て現在位置に立てられました。

木下勘解由塚 (市指定史跡)



総大将三好秀次に、木下勘解由利 木下助左衛門祐久(周防守)とと もにこの地で戦死しました。石碑 は、昭和54年 (1979) の建立。東

オマント(警団祭り) 県・市指定の無形民俗文化財

「馬の塔(オマント)」は、馬の背に標具と呼ばれる札や御幣を立 て、首や胴部も豪華な馬具で飾って、氏神や近隣の社寺へ奉納する祭 礼。古くから尾張と西三河の農村部で豊年祭りとして行われてきまし た。馬を警護する鉄砲隊や棒隊などが列をなすことから警固祭りと も呼ばれます。

馬の塔がいつごろから始められたかは、定かではありませんが、い くつかの記録・伝承から中世末 (およそ戦国時代) から近世 (およそ 江戸時代) 初頭にかけて、馬の塔の形態が整えられていったと考えら

本市の祭りは、岩作(県指定)、長湫(県指定)、 上郷 (市指定) の三地区で行われ、昔の形をよく残 しています。早朝には清めの儀式、垢離取りを行い ます。その後、馬宿とよばれる集合地点から隊列を 組んで出立し、市内を行進、所々で火縄銃を一斉発 砲します。岩作や長湫では、地域内を東西に分け、 それぞれの地区(切と呼ぶ)内を練り歩いた後、合 流します。その際は古式に従った形式で出会いの挨 拶を交わしてから、神社へ向かいます。神社に入る ときも氏子の代表者らに丁重に挨拶します。境内で は、本殿を囲むようにつくられた道を周回し、3周目 に入ると発砲を合図に人馬が境内を疾走、立てこみ と呼ばれる勇壮な場面が見られます。その後、境内 では、棒の手が奉納されます。社寺への献馬を終え た隊列は、地域内を回りながら、馬宿へと戻ります。





長湫地区

棒の手 県指定の無形民俗文化財

棒の手は、愛知県の代表的な民俗芸能の一つであり、県の無形民 俗文化財に指定されているものが多くあります。棒の手の起源は、は っきりした資料がなく定説がありません。

棒の手の演技は、定型的な短い動作「手(型)」が基本で、「手」を いくつも組み合わせて一つの種目とします。「手」は、棒のみが「表芸」、 キレモノといわれる得物を使う技が「裏芸」とされます。「手」には名 称があり、巻物(目録)に記載されます。初期のものは動きも少なく 「手」の量も多くありませんでしたが、他の武芸の影響を受けて内容 が大きく変わってきたようです。

市内には四流派(見当流、起倒流、鷹羽検藤流、藤牧検藤流)があ り、それぞれ特徴があります。

棒の手は、技を習得すると師匠 (容し主) から奥義の口伝と巻物が 相伝されてきました。巻物は秘伝でしたから、本来当人が亡くなれば 焼却するか、神社に奉納することになっていました。今日残っている 巻物の多くは、「死に巻」といって、偶然にも、子孫や仲間うちで保管 されてきたものです。







曹洞宗の寺院で、尾張三十三観音の三十一番札所です。昭和42年に名 古屋城下の東寺町から移転しました。

いわゆる修験道に属する真言宗醍醐派の寺院。長湫のお薬師さんとし て親しまれています。 Map D-4

浄土真宗高田派。長湫村の村寺で、三将の墓石と伝わる古い五輪塔が あります。

真言宗醍醐派。岩作のお薬師さんとして知られており、室町時代の作と 伝わる古い仏像のほか、境内には山ノ神の祠などがあります。

本尊は阿弥陀如来です。江戸時代、 子屋が置かれたこともあり、境内には 筆塚と呼ばれる碑(写真)もあります。 家康寄進と伝わる葵の紋付陣羽織が 伝わります。

安昌寺

曹洞宗。合戦後、雲山和尚 が戦死者を手厚く供養したと いうので、後年、尾張藩主をは ごめ多くの藩士が当寺を訪れ、

合戦にまつわる各種の書付を 残しました。また丹羽氏次の 田畑寄進状などの文書やうわ ばみという大蛇の説話絵馬 (写真) など美術工芸品も伝 つります。8月10日、観音堂の 九万九千日の祭りには多くの人 で賑います。

(1942) に現在の名称になりました。

昌隆寺

23 富士社

24 石作神社

本尊です。

ります。

上郷地区

岩作地区

曹洞宗。中世に、当地の豪族福岡太郎左衛門が建立 したのが始まりといわれています。境内には、かつて津 島神社の社殿であった建物が、現在も前熊の郷蔵とし て残されています。また円空作の章駄天立像(写真) も伝わります。



曹洞宗。明治初期に地元の人の私庵として創建された尼寺で、昭和17年

といわれる神社です。

Map D-9 曹洞宗。安昌寺の末寺でした。前熊村に古くから伝えられた薬師像が



駿河(静岡県)に本社がある富士浅間神社の先達・青山重太夫という 人が創建した富士山信仰の社。長久手合戦史跡「御旗山」の碑が境内にあ Map C-7



同社所蔵の「猿投三社大明神祭図 岩作村西之切画軸」(市指定文化財 写 真)は、明治時代中頃、岩作村生れの浅 井金左衛門(雅号喜翁玉山)の作です。 天保年間に行われた猿投神社の大祭に、 岩作村が警固隊列を仕立てて参加した 様子を描いています。対を成す「岩作村 東之切画軸」(未指定)が存在します。







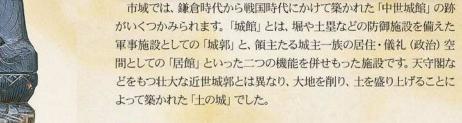


Map B-10 大草村の氏神です。古くは八幡社といったのを明治初期に熊野社と改

北熊村の氏神です。「神明社の石造

称しました。境内に大草城趾の碑があります。

鳥居」(市指定文化財 写真)は、寛文 2年(1662)建立。形式は八幡鳥居に属 します。また「神明社の棟札」(市指定 文化財 写真)には、職人のほか村役 人の名、願い文などが記されています。 享保17年 (1732) の造営棟札が最古で



岩 作 城 跡 (岩作城の内)

仮定できそうです。古瀬戸製品を多量に

含む多彩で豊富な陶磁器が出土しました。

特に注意をひくのは茶道具である天目茶

碗。武家の居住空間ならではの遺物です。

天保年間 (1830~1844) に成立した地誌

『尾張志』では、城主は今井四郎兵衛あ

るいは今井五郎太夫とされています。

現在も地名に残るように、市役 所の敷地周辺は岩作城の跡地です。

昭和60年・平成10年の発掘調査で、

城館に伴う堀・土塁・虎口などが、

それ以前に築かれた中世集落の遺

ことが判明しました。城の建築・廃

構を破壊する形で構築されている

城年代は正確には不明ですが、出

土遺物相の変化から、15世紀後葉

市役所前の石碑 ごろから16世紀後葉が城館期だと

その他

付 黒漆蒔絵箱 付 黒漆四脚台座

書(円遵筆/市指定文化財)

浄土真宗高田派本山専修寺の第十八世 円遵上人が、天明4年(1784)

6月14日付けで、愛知郡高針村の蓮教寺と長久手村の常照寺の「十四日

講」(十四日夜に営まれる念仏講)に与えた書です。巻子本。



洞宗になったと伝わります。本尊は市内最古の

仏像といわれる地蔵菩薩立像です。また円空作

も伝わります。

の「木造薬師如来坐像」(市指定文化財写真)

境内には岩廻間から移された小五郎松の碑

绘馬」(市指定文化財 写 真) の所蔵寺としても知られて います。絵馬には、大草村の祭 礼「馬の塔」で、飾り馬の背に 糸わくの標具を乗せて献馬す る様子が描かれています。天 和元年(1681)、三光院に奉 納されました。後年褪色した

ため文政2年(1819)に加彩したと銘文にあります。

宗延寺

浄土真宗高田派。北熊の村寺で本尊は阿弥陀如来。境内に祀られてい る大日如来像は、室町時代のものといわれます。この地域では、大日サン :呼ばれる祭りが続けられており、8月14日にはお供え物をもった地元の 人が集まります。

22 景行天皇社



長湫村の氏神です。社伝によれば承和4年(837)の創建で、日本武尊 の父、景行天皇を祀ります。「景行天皇社の棟札」(市指定文化財 写 真) は、江戸時代のものがほとんどですが、享禄3年(1530)のものが2 枚あります。同社所蔵の「陶製御深井釉狛犬」(市指定文化財 写真)は、 宝暦3年(1753)製作。狛犬としては模範的な形状で、宝暦年間以前の様 式がうかがえます。背面に刻まれた「双若キ者」の文字から、この狛犬は 長久手村の若衆が氏神の景行天皇社に奉納したもので、その時代に若衆 制度があったことがわかります。





安政2年(1855)、岩作高根山に木曽御嶽の分霊を祀ったことに始まる

Map C-10

前熊村の氏神です。水の神様

として知られる多度神社の「石

造鳥居」(市指定文化財 写

真) は、寛文元年 (1661) 建立。



者として巷におかれ、庶民の日常生活の 中で敬愛されてきました。丸彫り、舟形浮 彫りの像が、現在も道筋の小堂などに置 かれて、地域の人が花や供物を供えてい

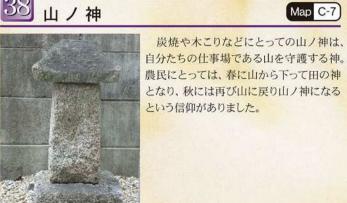
Map B-8 市内には、三州道、八草道、山口道、岩



江戸中期以降、防火の神として秋葉信仰が 盛んになり、シマと呼ばれる地域区分ごとに 石の常夜燈が立てられました。各戸が当番で、 毎夜常夜燈に火を献上しました。



Map C-7



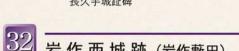


郭、帯曲輪、土塁などが配置され、折 れを多く設けた城の構造から、永禄・ 天正期に修造されたとみられています。 『尾張志』には、城主として福岡新助

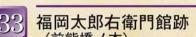
立する連郭構造であったことがわかっていま



長久手城趾(城屋敷) 3~6 m、深さ1.7~7.5 mの堀割りを挟んで ?形の平面をもつ東城と長方形の西城が並



岩作西城跡(岩作藪田) 『尾張志』に記された岩作村内の二つの古城跡のうち「西ノ城」にあた ります。明治時代の地籍図上で畑地と宅地からなる区画らしき部分が城 跡と推定されますが、詳細は不明です。



(前熊橋ノ本) 現在の前熊寺の境内一帯がその館跡とされますが、構造など詳細は不

明です。城主は前熊寺の前身和合寺の開基福岡太郎右衛門とされていま

Map D-6

Map C-7

市内には仏像などを安置した堂

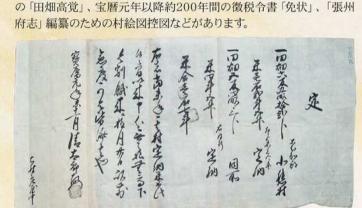
があちこちにあります。役の行者

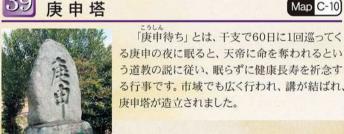
(神変大菩薩)の行者堂、弘法大師

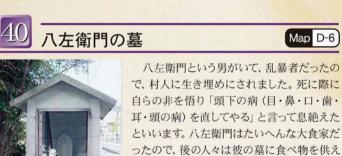
(空海)の弘法堂のほか、大日堂、 観音堂、地蔵堂、薬師堂、不動堂な

観音や地蔵の石仏は、より身近な守護

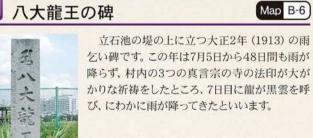
旧北熊村の古文書(市指定文化財) 現在の熊張地区東部にあたる旧北熊村の史料。近世初期寛文年間

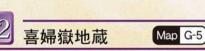


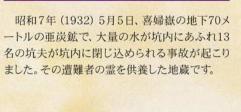


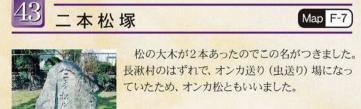


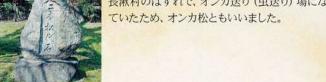
て病気平癒を祈願したと伝わります。

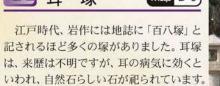




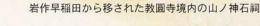












直会神社 Map C-6

物をおろしていただく酒宴「ナオライ」が 行われた場所と考えられます。地元の文 人浅井菊寿の碑(写真)もあります。





自分たちの仕事場である山を守護する神。 農民にとっては、春に山から下って田の神 となり、秋には再び山に戻り山ノ神になる いう信仰がありました。